

「同」すつーわ
あとーわ
1取扱説明書見
3月ばかりでないだ

〔例1〕 $\frac{1}{2}x^2 - 1$

あと一章

5,506^P

二字下

43取物字(左.右) 19 P 32⁺ 60⁰
70⁺ 56⁰

市立
行政博物館
1297

小野小町
130頁下

5,507 P

小野小町 222 頁下

二十餘年後、當時、

カグヤ姫のあがめ

とボヘ

トボヘ

ヒメの、あがめ

の九十余

歳

になる（でなく）何と年齢が若返り不思議にも五十

歳ばかりになつていた

トボヘ

トボヘ

トボヘ

トボヘ

歳

ようにも考へられ

トボヘ

トボヘ

トボヘ

トボヘ

歳

の奥に、

トボヘ

トボヘ

トボヘ

トボヘ

歳

へ祖父（おじい）は、五十一歳で死去した

トボヘ

トボヘ

トボヘ

トボヘ

歳

はまり（な）いもの（の）小野小町は、

トボヘ

トボヘ

トボヘ

トボヘ

歳

へ祖父（おじい）が、五十ばかりで逝去了した

トボヘ

トボヘ

トボヘ

トボヘ

歳

と（な）う（と）を竹取の翁の翁の物語の（の）中（なか）に、

トボヘ

トボヘ

トボヘ

トボヘ

歳

か。（第九十五章）

トボヘ

トボヘ

トボヘ

トボヘ

歳

と十たためておきたかったのではなかうう

と書か公卿、今年は五十ばかりなりけれども、テ知らぬ風を慕ひ、さうりと、

と想察され
「年月が経つほど年が若くなり、七十餘歳た
た翁が、一一一いつ一かく五十歳ばかりの翁にた
て、た翁かは、御加瀬凸（非現実的な夢）
と、う筋書きは、面白く、興味深々

10

因みに述べると、万巻十二一三〇四三に、
次の歌が掲載されてゐる。
露霜の消やすきわが身老ぬとも
また若反り君を一待ちむ
(作
者不明)
露や霜のようになに消えやすい我か身は年老い
ようともまた若返りてあなたと恋愛いた
る。
13.5.5M

5.5/0

だとりつているところである。命とは言つて

いなさい。命とは下滅がやすく肉体に輝きを与える別の

と古代の人は考へていたようである。つねに肉体を励ますものは消えやすくな

いのである

とひう。(「朝日新聞」平成二十五年十一月

三十日付ヘナカニシ先生の万葉塾(万葉

集)(三)日本古典文学大系、岩波書店、昭和四

十二年十月三十日第八刷発行 二九五頁 参
照

第一句の

詠体
かきふみ
いたふみ

心化山
心掛山

ヒ
歌
つ
た。

難波江のことは、第四句の「人」したかがつていふのだうつか。
うむ 現在の事態を表す

・ 小町は、その悲しき事のように感ひ
人わかこと
難波江の釣する海人にわかれてゆく。
袖や濡るらん

・ 女の面には涙があつた。
次第に小さくなつてゆく。

・ 小舟の上で時折り手を振る海人の姿が、
に併む女が、遠くへ漕ぎ渡つて行く舟をじ
つと見詰め続けていた。

大。
皇の御許へ上らせた小野小町は、
今かに都を離れ、淀川を下り、難波へ至つ

しかねます。云々
と一たためた文を世人に託し、帝の御厚意の情愛では
ござりますか。私は到底お受け致

都落の竹取翁の物語を書き終えやうな小町は

□ こここのところ、群書類從卷第二百七十二

□ 小町集凸64番歌には、

難波めの釣する人へめかれむ

人もわかこと袖やぬるらん

ぱり分からぬ。とあつて、一一どういう意味なのだか、さつ

因みに述べると、(1) 仙坂(二) なにはめの(二) 釣(三) する人へ(三) めかれ

ん

(2) 傑(一) なには江(二) つりするあま(三) めかれ

れりん

(3) 異(一) なにはめ(二) つりする人の(三) めかれ

けん(五) 袖やぬれけん

(4) 神(一) 難波江の(二) つりするあま(三) めかれ

せぬ

(5) 静(一) めかれせん

とある。

水なが、

仙歌仙本。

傑(一) 架藏小野小町集。

異(一)

小野小町は、難波工船で舟古乗り替え、西宮トレ

小野町か、その人(女の人)へ同情を(どうじやう)。(う)

濡ぬれても人をかぶる二と袖やぬるうん

里へ舞い戻ろうと思つのだつた

*

一方 宮中では、帝が天を仰いで長嘆息した。

おりでかなつ

「天上の国へ帰らねばなりませんので、お暇

(お別れ) 申一上アガマセだと

そんなんことをさせてなゐるものか

竹取の公の物語を読んだ帝は

層
小町へ心を引かれておりでの御様子

た
ト
た
ト

7 小町を

まつたら、

大臣
勝
リ・わ
か

捨てられていました。そのため、捨てられなくなつたのは、捨てられました。内因的な
Rは第一巻131頁に「色揚子」捨てて仕事うござる尊敬の意を表す
5.5/5P 謹申す
R

5,5/5P

5,515P Rは第一巻 131頁
詳す

下色 振る = 捨てて 仕舞う = 究なさる
尊故の元を裏す

準寸¹³ ~~八~~RR

へ帝とリえどもアメはリア世の男共と同い
であつたか
へお可哀相にア捨てら小なせつたのね
流石にアホとアうべきよ
嬉とアホとアうべきよ
嬉とアホとアうべきよ
とアホとアうべきよ
語り合ア巷の噂話がア聞えて
きテうである。

利く、効く
きさかきゆき

5.5/6

町集 18番歌と舟とある。

(ニ)

前頭

ニニト帝は、思案された。
「伏か、一休」とのようになりたのか

小野 小町の乗る舟は、須磨の浦あたりにさかかっていた。(第545回 写真版 802参照)

*

白比日 206

よる へなきみぞ 悲しき 一かりける

(群書類叢本「小町集」他)

小町の心は、悲しきに打ちひいかけていま

174

小野小町 194 53
前田善子 354

へよせにかゆ

小町の心は、悲しきに打ちひいかけていま
へなきみぞ 悲しき 一かりける

たのではないかしら
へでむべ 私には
ながく舟を漕りでいる
のである。
の意味があり
味が利かせてある。

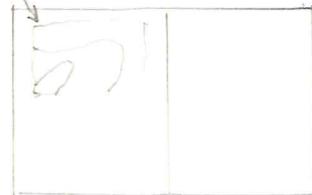
(*)

ヨクヨ ケ-20 20×20

もれいな

5,577

・カラー
左頁の上半分にはみ出でて、
大きく掲載
下さい。



第 545 図 明石・須磨・難波あたりの地図

『新詳高等社会科地図』 帝国書院 平成3年3月25日発行 100頁参照

・明石の浦も、須磨の浦も、白砂青松の風光明媚を以て知られた。(「広辞苑」<明石><須磨>参照)

12 QG 577

5,518 P

- ・白黒。(裏面)
- ・左頁の下部分
大きく掲載して
下さい。



→ 淡路島が分かれよう
て下さい。



14 QGゴ4 中心ぶりわけ
半字アキ 写真図版 802 約2kmにわたって続く白砂青松の須磨の浦
ふるさとの文化遺産 ✓ 郡土資料事典『兵庫県』人文社 1997年10月1日発行 4頁参照

13 QGゴ4

改行

2

5,519

入院中 危険な病気と直面
癌 有明の月

万①-149及未3行人 人 149
唐

桟橋

5.520 P

～なき日が、めだたないようにておいて下さい。

桟橋

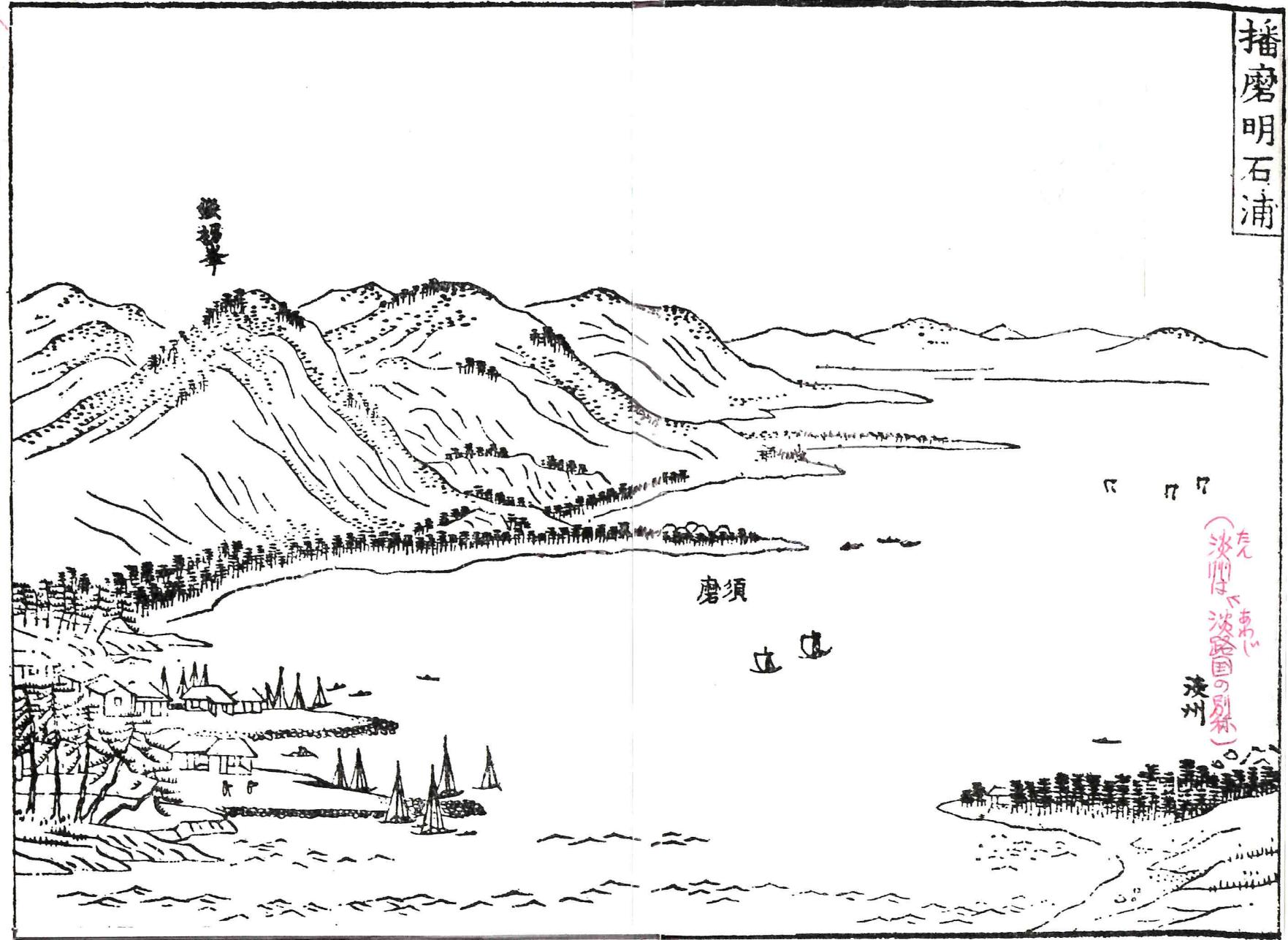
播磨明石浦

白黒

右頁の下部分
大きく掲載下さい



波裏の
有明の月



第546図 あか(635)明石の浦(山水奇觀)

『明石市史』上巻 明石市役所 昭和35年3月31日発行 67頁 他参照
・奥は、大和島だろうか。

178 P

八代集2 - 125⁹ 125¹⁰ 125¹¹

人まろの歌

君包(徐大志頭前)

黒岩渕香 102^丁
何と調子のよい歌であります
皆の合唱といつ

大21 こうやく 27
名(1)は、後の記述 P 必 は 有明の月 の写真を掲載(左)。
入(2)は、5,52.1 水平線の月

大道理

5,522^P

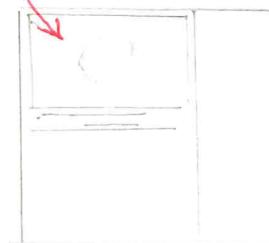
九月十

本書には、図版や挿絵 基準線

左肩上半分に、
限度一杯は突出して
掲載下さい。

- ・月を小さく(なりて)下せ!

- ・空を、濃い青色の部分のベタにて下さい。
- ・月のかたむきを、この写真と同じにて下さい。



- ・月の輪郭部分は、現在のママで結構です。(シャープにならないで下さい)



14 QG

写真図版 803 有明の月

12QG 13QG 『月の本』 林完次 角川書店 2000年9月30日再版発行 11頁参照

- ・平成27年(2015)10月31日〔陰曆9月19日〕の日出^{ひので}6°17'以降に撮影した有明の月(月齢18.1)と、色・形共にほぼ"同様"。
- ・なお、『りまちづき』(陰曆18日の月)は、枕詞として「明け・明石」にかかる(広辞苑) 180°

絶唱^{ぜきよう}「何^{なん}と^いう調子^{ちようし}の好^い歌^{うた}で^いう」^{古今の}と^も称^いすべき一^です^レ
 と^いう^ア (「小野小町論^{くのこまろん}」) 黒岩涙香^{くろいわるい} 朝報社^{アサヒ}

大正二年七月二十日再版発行 下一〇二頁

照^{（）}

・「レシ^{レシ}は、上の語を強く指示して強め^る助^{（）}
 詞である。(「云辭苑^{うんじげん}」^{レシ}参照^{（）})
 のへば^{（）}をうけ^{（）}確定^{（）}条件^{（）}を表^{（）}わ^{（）}ー^{（）}り^{（）}る^{（）}
 「広辭苑^{（）}」へ^{（）}ヘ^{（）}已^{（）}然^{（）}形^{（）}へ^{（）}参照^{（）})

・「な^{（）}お^{（）}本^{（）}歌^{（）}は^{（）}柿^{（）}本^{（）}人^{（）}麻^{（）}呂^{（）}の^{（）}
 君^{（）}九^{（）}月^{（）}の^{（）}有^{（）}明^{（）}の^{（）}月^{（）}夜^{（）}アリ^{（）}フ^{（）}オ^{（）}
 加^{（）}来^{（）}ま^{（）}さ^{（）}は^{（）}ウ^{（）}ル^{（）}レ^{（）}ヒ^{（）}メ^{（）}ヤ^{（）}モ^{（）}
 である。(「万葉十^一二^三〇〇^ア」^{レシ}拾遺^{（）}和歌集^{（）})

795番歌参照^{（）}

因^{（）}ちな^{（）}

つ^{（）}い^{（）}て^{（）}、^{（）}こ^{（）}う^{（）}言^{（）}わ^{（）}か^{（）}て^{（）}ハ^{（）}る^{（）}

伊勢^{（）}神宮^{（）}の^{（）}神嘗祭^{（）}に^{（）}ト^{（）}

外宮^{（）}では^{（）}毎年^{（）}十月^{（）}（旧曆九月^{（）}）十五^{（）}七^{（）}十^{（）}

内宮^{（）}では^{（）}十六^{（）}九^{（）}月^{（）}（新曆九月^{（）}）十五^{（）}七^{（）}十^{（）}

十六^{（）}九^{（）}月^{（）}（新曆九月^{（）}）十五^{（）}七^{（）}十^{（）}

遙^{（）}持^{（）}する^{（）}

万③-141

あいかわらく、かたじけなく うめく

八代果(2)-125 有明の月の写真を載せよ! 5.524

萬鶴はその胸の内に まがふね

石屋りと抱き締め、娘喜迎え船、迎え

『舟』3日前に。(すまの浦の
漁港) 3日前に(浦の漁港)

大也「
極 う

卷之三

→ 謹を使う。

度を越すな。→ 慎を俟う。
歌がダメ

歌
加
タ
ル
ル

ヒラバ(「云辞苑」へ神嘗日祭)細参照
・つまり下口神嘗祭にか夜を徹て行なわれて、
の頃の「九月の有明の月」が歌われて、いるわけである。
豪華な龍船が近付く。

百科事
⑥-660 P
詳くわん
花井勝文准
151'

夜明けよ

お空に残る月

・仁和三年に、五回(四名) あって、……それ以前と較べるは 小野氏一族が際立つて幅広く引き立てられていて、といえよう。

・また、『竹取物語』は、源氏物語(絵合)に「物語の出

てみよう。(第58表参照) 「小野朝臣」任官記事の【掲載回数】を示す一覧表を掲げてみよう。(第59表参照) この表で特に目を引くのは、光孝天皇の仁和一年から三年にかけて、小野氏一族の任官記事が頻出するところである。

この物語では、この物語では、

『仁和一年の春頃から、翌三年八月の退位迄の間、光孝天皇は、愛する小町の爲に……その一族に恩恵を及ぼされたる嬉しさ、心ときめく春であった。

新たな年、光孝天皇の仁和一年(八八六)の春を迎えた。

うか。(第547図)光孝天皇_{参考}

と考えてみた。(第九十五章)光孝天皇の淡い想もくの項、光孝天皇の「眷人」、慈仁寛暉。親愛ス九族(参照)とはいえこの当時は、藤原氏に遠慮せざるを得ない、思うにまかせない時代であった。だから、小野朝臣を重要な官職にいきなり抜擢するといわけにはいかなかつたであらう。

立ててやらずに、おれなり氣持でおいでだつたのだらう、しかしそれでも、光孝天皇は、小野氏一族の多くを引き

5525 P

任官記事の回数を数えると、

■『三代実録』仁和一年及び三年条に見られる「小野朝臣」

あり、この記事が、仁和一年から三年にかけて多数見られる「小野朝臣」任官記録の端緒をなすものである。

②「散位徒五位下小野朝臣當岑(アヌ)周防守」

①「散位徒五位下小野朝臣千里(アヌ)山城介」

■『三代実録』仁和一年正月十六日条に、

うか。(第547図)光孝天皇_{参考}

時に、光孝天皇は五十六歳、小町は四十六歳である

新たな年、光孝天皇の仁和一年(八八六)の春を迎えた。

うか。(第547図)光孝天皇_{参考}

8月26日 13巻220葉下45行

光孝天皇の寵愛

系、岩波書店、五貢参照

三三五頁。『竹取物語・伊勢物語・大和物語』日本古典文学大系、岩波書店、五貢参照

たのだった。(史料による日本の歩み)古代編、吉川弘文館、

さかんに作られることになる物語文学の先駆的作品となっ

で来はじめの祖(おや)と記されているように、十世紀後半以後

・また、『竹取物語』は、源氏物語(絵合)に「物語の出

・『三代実録』清和・陽成・光孝朝の記録中に見られる

「小野朝臣」任官記事の【掲載回数】を示す一覧表を掲げてみよう。(第58表参照)

右肩の上(右側)

1/4ト掲載

543 1~2
小野小町の回顧
左肩に配置する



第547図 光孝天皇

『皇室大百科』朝日通信社 昭和50年3月10日発行 223頁参照

5, 526 P

「人一首」→学習研究社 38巻 12月号の丸二首 (探歌等) 184

左頁全面に記入
2ボトム
58
下書き

〔参考資料〕『日本三代実録』清和・陽成・光孝朝に見られる「小野朝臣」の任官記事一覧表

5543下95

天皇	和暦	西暦	当 本	葛 絃	春 風	春 枝	後 生	問 道	千 珠	千 里	千 邦	香 木	國 梁	任官件数 (人數)
天安	2	858												
貞觀	1	859												
	2	860					1			2				3 (2名)
	3	861												1 (1名)
	4	862												
	5	863							1					1 (2名)
	6	864							1					1 (1名)
	7	865												
	8	866												
清和天皇	9	867							3					3 (1名)
	10	868												
	11	869												
	12	870					2	2		1				6 (4名)
	13	871												
	14	872												
	15	873												
	16	874												
	17	875												
	18	876												
元慶	1	877												
	2	878		1	1									2 (2名)
	3	879												
陽成天皇	4	880												
	5	881												
	6	882												
	7	883												
	8	884												
仁和	1	885								1				2 (2名)
	2	886	2							2				7 (4名)
光孝天皇	3	887			2					1	1	1		5 (4名)

5527

185

〔参考資料〕『日本三代実録索引』吉川弘文館

※ 表中の数字は、任官の掲載回数を示す。

と拝察される。

臣の任官記事を列記しておくことにしよう。

なお参考までに、仁和一年正月十六日から後の「小野朝

仁和二年(八八六)

③二月二十一日。散位從五位下小野朝臣喬木爲_ス図書

④同二月二十一日。周防守從五位下小野朝臣當岑爲_ス鑄

伊勢權介_一。
⑤同二月二十一日。從五位下行山城介小野朝臣千里爲_ス
津守_一。

⑥六月十三日。從五位上守刑部大輔小野朝臣後生爲_ス攝
仁和三年(八八七)

①二月一日。從五位下守刑部大輔小野朝臣喬木爲_ス山城
守_一。

②三月八日。以_テ玄蕃頭從五位下小野朝臣千邦爲_ス右京
亮_一。
③同三月八日。從五位下行伊勢權介小野朝臣千里爲_ス因
「楊貴妃」と、「玄宗皇帝」との恋愛を歌った「長恨歌」で

○四月十三日。少_ニ燕正六位下小野朝臣連峯爲_ス大學大
權介_一。

ある。

じうい。

八八六(よりも一四〇年ばかり前の唐の國の絶世の美女_一
じに想起されるのは、光孝天皇の仁和一年
「楊貴妃」と、「玄宗皇帝」との恋愛を歌った「長恨歌」で
ある。

*

一族の任官記事は非常な數になつたであろう、とも想像さ
だが、もしも光孝天皇の御代が長かつたならば、小野氏
と見るには、その回数がまだ少ないよう感もある。

寵愛を受けていたあからし乍
これら「小野朝臣」の任官記録こそ、……小野小町が

*

なるほど、
川弘文館「小野朝臣」參照)

とある。「三代実錄」、「日本三代実錄索引」六國史索引(四)吉
津權守_一。

⑤六月十三日。從五位上守大膳大夫小野朝臣春風爲_ス攝
夫。
④五月十三日。散位從五位上小野朝臣春風爲_ス大膳大
夫。

允_一。

186

漢皇色を重んじて傾國を思ふ。御宇多年求めども得ず。楊家に女有り初めて長成す。養はれて深閨に在りて人未だ識らず。天生の麗質自ら棄て難く、一朝選ばれて君王わらへ。の側に在り。眸を回らして一笑すれば百の媚生じ、六宮の粉黛顔色無し。春寒くして浴を賜ふ華清の池。温泉水滑らかにして凝脂を洗ふ。侍兒扶け起せば嬌として力無し。始めて是れ新に恩澤を承くるの時。雲鬟花顔金歩搖。芙蓉の帳暖かにして春宵を度る。春宵短きに苦しみ日高くして起く。此れ從り君王早朝せざ。歡を承け宴に侍して閑暇無く、春は春遊に從ひ夜は夜を專にす。後宮の佳麗三千人。三千の寵愛一身に在り。金屋妝成して嬌い弟兄皆士を列ね、嬌れむ可し光彩の門戸に生ずるを。遂に天下の父母の心をして、男を生むを重んぜし女を生むを重んぜしむ。

楊貴妃の出身および入内過程は、白居易が詩中で述べるほど簡単なものではなく、絶余曲折があるのだが、それをいわなのは、天子に対するはばかりと、悉く愛そのものをより神聖にして、美しいものにして、『長恨』の意味を深からしめんとする意図によると思われる。

貴妃は、幼名を『玉環』といい、開元七年(七一九)に安禄山が、宰相楊國忠との不和から天宝十四年(七五五)が内在した。

開元の治とたえられた玄宗の治世も、晩年には、天子の倦怠、宰相李林甫や、楊貴妃の一族楊國忠らの横暴により、表面的和平にもかからず、政治・経済・社会の不安が内在した。

玄宗は、楊貴妃におぼれて政治をかえりみじよつになつた。この後、楊貴妃の一族は、みな高位にのぼつた。

貴妃は一十七歳、玄宗は六十一歳だった。

その寵愛は日々に深まり、ついに天宝四年(七四五)冊せられて貴妃(皇后)を助ける正一品の女官となりつた。時に、太真は、歌舞音曲に通じ、よく玄宗の意にかなつたので、として、宮中に入れた。

玄宗は、この妃に道教の得度を受けさせ、女道士『太真』に命じて外宮をさせらせ、寿王の妃を得た。

開元二十四年(七三六)に武惠妃を失つた玄宗皇帝は、日夜樂しまず、たまたま驪山の温泉に行幸した際、高力士に見出されるきっかけとなる。

十七歳で玄宗の第十八皇子寿王李瑁の妃となり、これが玄宗を失い、叔父の家で養われた。後、開元二十三年(七三五)蜀州の司戸參軍楊玄琰の娘として生まれたが、早くに両親し

か

も深い才人だから、ひとつ試みに作詩してみていかがですか
と共に消滅してしまつだらう。君は詩にすぐれ、また情愛

『世にもまれなこの事柄は、天才の筆によらなければ、時
嘆した時、王質夫が、
話がまたまた玄宗と楊貴妃との悲恋におよび、相共に感

三人は、余暇を見て、仙遊寺に遊んだ。
住んでいた。

元和元年(806)冬十一月、樂天(居易)は、整屋の
扇となつて赴任してきた。この地には、陳鴻と王質夫とが

次のように記されている。
作詞の動機については、陳鴻の『長恨歌伝』に詳しく述べ

觀るために足る作品である。
豊かな情感の持主白居易(七七一~八四六)の漫的恋愛

で、白詩の特質である平易流麗な面が遺憾なく發揮され、
なお『長恨歌』は七言、百十句、八百四十字の長篇

辞典創元新社楊貴妃く安史の乱く参照
させられた。(漢詩)藤野岩友、旺文社、一二三頁。」東洋史

平県馬嵬鎮。長安の西約六〇キロの仏寺の庭において、縊死
楊貴妃は、玄宗に従い蜀に向かう途中、馬嵬(陝西省興

に反乱を起こすと、たちまち大乱となつた。
兵士に迫られて

とすると、仁和一年(806)には四十六歳だったことに

仁明天皇の承和八年(841)に生まれた
なお小町は、

以上とされたく

小野小町の父良実は、この頃『卿』(參議もしくは三位

いは、
そして又、『二代実録』等に記されていながら、ある

と想像される。
であるく

然的に、小野氏一族の者達が皆士を列ねることになつたの
光孝天皇は、小町を見初めてよなく寵愛され、……必ず

まさしくこの『長恨歌』の一節と同様

*

はじめたのだつた。

元和元年(806)頃、——白樂天は、『長恨歌』を作り

つまり、光孝天皇の仁和一年(806)より八十年前の
といふ。(漢詩)藤野岩友、旺文社、一二三頁参照

『長恨歌伝』を作つた
そこで、白樂天(白居易)が『長恨歌』を作り、陳鴻が
と勧めた。

227
846 46
45 45

あるいは、このとを、このよつて述べていてはないだらうか。即ち、是の日、光孝天皇は、小町を妃とされたのかも知れない。

「始めて是れ新に恩澤を承くるの時」のところを、このよつて述べていてはないだらうか。

その電顔が、清朗ながらも少々上気して、火照っていたのであるう、と抨察される。

そしてこれよりのち、長恨歌の描写を思わせるよつな、

「雲鬢花顔金歩搖。初夏の宵」(日が暮れてから夜中に至るまで)の間の短きに苦しみ、日高べして起く。歎を承け宴に待して閒暇無く、種種の遊びに従ひ夜は夜を専にする。

といつた樂しい日々が打ち続いていたよつに思われる。

ではいじじに、「群書類從」の文筆部におひめられていてはいじじに、「玉造小町子壯衰書」の長文の中から、廻廻抜粋してみよ。

花帳の裏に籠せられて外戸に歩ます。珠簾之内に愛せらう。

れて傍の門に行くこと無し。

朝には鏡に向ひ蛾眉を点じて容貌を好くし、暮には鳳釵を取り蟬翼を画きて艶色を理ふ。

面には白粉を絶たず、顔には丹朱を断つことなからず。

5.531 P

して、温氣(あたたかみ、暖氣)があつた、といつのである。天顔(天子の顔)は清朗(きよくほがらか)に是の日、光孝天皇はよほど嬉しくて、しかがなかつたとある。

「比日(毎日)。天氣陰寒。人着綿衣。是日。天顔清朗。」

■四月十八日条に、

■三月五日条に、「帝近日聖體乖和。是日平復」

■三月一日条に、「天皇聖體不豫(御病氣)」

賤詩如常。賜綿有差

■正月十一日条に、「内宴。奏女樂。喚文人。」

「三代實錄」仁和一年(八八〇)の記録を見ると、

*

うまで多く詳らかでない。

(ヒ)されて『頃』となつたのだらうか。しかし、し……

もしかしたら、小町の父良実は、追贈(死後官位を贈る

も)とともに、この当時迄、父良実が生きていたのかどうか

もうと思われる。

そしてこのとき小町の父良実は、六十七歳前後であつた

なる。

十七歳にして悲母を喪ひ、十九歳にして慈父を喪す。
富貴は天の与ふる所なり、東西南北の雲色定まらず。
愛樂は人の感ずる所なり、生老病死の風の声常なし。
且は樂天(白樂天、白居易のこと)と。長恨歌等で知られる
秦中吟の詩を学び、且は幸地嶧上詠の賦に效ふ。
韻を古調に造りて、詩を新草に賦せんと云ふこと爾なり。
寡孤(夫のないやもめぐらし)にて年を送る處、嫁ぐ
に一獵師(とらえ人の意か)。つまり光孝天皇のことであり
るうを得たり。

猶師に一婦あり、孤妾に一婢なし。

憂悲して日を過す程に、一の男児を産み得たり。

男児の容顔は美しくして、妾が身は形体衰へたり。

思ふことのみ有り。
秋の霜に素髪を梳り、曉の浪に黄髪を洗ふ。

唇は膠れて朱の潤無く、面は皺になり粉滑かならず。
日暮れば荒れたる闇に眠り、朝闇くるまで壊れたる扉に
伏せり。

(このあたりは、大江惟草を共としていた頃のこと)と述べて
専ら凡家の妻として与へむといふことの語は無し。

唯王宮の妃として獻らむといふことの議のみ有りて、
爺嬢は許さず、兄弟は諾ふこと無し。
然れども辰に競ふ。

君臣の子孫は婚姻を日夜に争ひ、富貴の主客は伉儷を時
之に依つて

月の夜を迎へては金絃を操つて鶴桜紫藤の和歌を詠じ、
花の時を待ちては玉筆をとりて紅桜紫藤の和歌を詠じ、
手に鸕鷀の觴を取れば漢月(天の川と明月)落ちて影静
かなり。

口に鳳凰の管を吹けば梁塵廻りて声斜なり。

月の夜を待ちは玉筆をとりて紅桜紫藤の和歌を詠じ、
花の時を待ちては玉筆をとりて紅桜紫藤の和歌を詠じ、
手に鸕鷀の觴を取れば漢月(天の川と明月)落ちて影静
かなり。

碧浪の蒼濱に置めるに似たり。(三真園版 804) 彩雲^{くわ}參照
絢袖は飄颻て彩雲の翠嶺を廻るが如く、絢袂は暁は睡まで
巫峽の行雲は恒に襟上にあり、洛川の廻雪は常に袖中に
處を

碧浪の蒼濱に置めるに似たり。(三真園版 804) 彩雲^{くわ}參照
絢袖は飄颻て彩雲の翠嶺を廻るが如く、絢袂は暁は睡まで
帝の夫人(の蓮睡をも肩ともせず)。

楊貴妃の華眼も奈ともなしえず、李夫人(前漢第七代武
帝の夫人)の蓮睡をも肩ともせず。

桃の顔は露に映みて、柳の髪は風に梳づる。

- カラー
- 頃の上半分に
- 掲載下さい。

•個人の写真 →



12Q6

14Q7 写真図版 804 彩雲

• 雲が虹のよう輝いて見える ← ← ← 「彩雲」を 平成23年5月8日 松野忠男さん(石川県=全日写連会員)が撮影した。

13Q6

• 「彩雲」は、晴れた日、太陽のそばに薄い雲がかった時に、雲の粒にあたった光が屈折して見える気象現象である。

『朝日新聞』平成23年7月16日付 <彩雲> 参照。

(大阪版)

5.534

光孝天皇が、あまりにも小町を寵愛されるものだから、
り動かさんばかりに書き、十五万の大軍が都(長安)に攻
つまり、

おろさ
おれ
おれ

部のみ適宜抜粋

(「小野小町追跡」片桐洋一、笠間書院、三三〇頁より)

凡、仏乗を讀へんがために、筆をとりて斯詩を作る。
中道の教は我を憐みて、慈哀背政ることなし。
西方の尊は我を憐みて、引接相違はさらむ。
との聲を致す。

水く往生の食事を奉いて、忽ちに発心(菩提心)を起します。

愁氣は心府に余り、憤神は胸臆に満つ。

片時も袂乾き難く、長夜も枕欹て易し。

涙を抑ひて臥して慄側へ、腸を断ちて起きて啜り。

父母は喪して拠あらず、夫兒殞びて依なし。

びたり。

君(光孝天皇)は前だちで我は後れ、子は傷みて夫は廢

夫は芸能猶劣ければ、婦の貞潔最卑し。

籠に傾きて声唄たり、巣覆りて喉舌たり。

夫に縁ると柴燕の如く、子を愛するといと斑雉に似たり。

んとして線絵を尋ね。

子に糺むとして樅(赤子のきもの)を会ひ、夫に被せ

さす、「唯王宮の妃として献りたい」と願つたく

く連付けられていたことがうかがえる。

女「小野小町」とが、……時と國の違ひあるにせよ、強

唐の國の絶世の美女「楊貴妃」と、日本の國の絶世の美

に似てゐるようである。

とすれば、どことなく、白楽天(白居易)の「長恨歌」

といふ情況(いの当時の世相)が述べられてゐるやうに思

ます、「唯王宮の妃として献りたい」と願つたく

君臣の子孫が妙麗の娘を求めようとして、父母は許

5532
上15行

に、字を玉眞といつ者があり、雪のよくな膚や花のよくな
と聞いた。方士が蓬莱宮に来るといふと、貴妃は玉の簾をおし開いて現わ
れた。その玉のよくな美しい面には、悲しみの色が見られ
た。太眞(貴妃)は、情のよくなつた眸でじっと見つめながら
「一度お別れして以来、お声もお姿も拝するにとのできな
い遠いところへ来てしまいました。昔昭陽殿の内でお受け
いたしました因愛の情も今は絶え、ここ蓬莱宮の内に移り
住んでから、もう長い年月がたちました。ふりかえて人ひと
里のあたりを望み見ましても、なつかしい長安は見えず、
塵や霧がもうもつとしでいるのが見えるだけです。たゞ昔
をしのぶ形見の品々を差し上げ、私の深い心のしるしと致
しましよう。」かつて皇帝から賜わった青貝細工(螺鈿)を
は片方の脚を、香盒(香料を入れる容器)は蓋と身のうち
の香盒と金のかんばしを持て行つて頂きます。かんばし
は海上に仙山があるて、その山は大海の廣々としてかすか
にかかる地にあります。こんなふうにすれば、天上における
相見る機会がござりますよ。」

動かさない。(二)

193

き、そこには、しとやかな仙女が多く住んでいます。その中
なかつたが、……そんな時、
方士は、天上國から黃泉國までくまなく尋ねて見出せ
かねて、方士に魂魄の在處を探すよう命じた。
唐の玄宗は、馬嵬が原で死んだ寵姫楊貴妃のことを忘れ
夢にさえも訪れてくれなかつた。
しかしそこに、楊貴妃の姿はなく、思う人のたましいは
幸になつた。
玉で作ったかんばし(など)が地上に散つた。
花鉢(花かんばし)・翠翫(かわせみの尾の髪飾り)・玉搔頭(玉を搔いた)を賜わつた。
花のようにたおやかな美人は、皇帝の馬前で殺され、
直屬の全軍はどうしても進まなくなつた。
千の兵車、万の騎兵から成る宮軍は西南の蜀都を目指
めて出發した。だが、長安の西方百余里(馬嵬坡)で、天子
じに皇帝は、安禄山の乱の遠因ともなつた楊貴妃に、
死を賜わつた。
翠翫(かわせみの尾の髪飾り)・玉搔頭(玉を搔いた)を回復したので、玄宗皇帝は上皇として、長安の都へ御還
月日は移り(蜀にあること一年)。官軍が賊軍を破つて長安
を回復したので、玄宗皇帝は上皇として、長安の都へ御還

5.5.36 P

と歌っているのである。

に移り住んだく

→楊貴妃の魂魄(靈魂)は、東海の海中に絶在する蓬萊宮

すなわち、白楽天は、

九「三九貢参考

いつまでも続くのである。(「漢詩」藤野岩友、旺文社、一一

離ればなれになつていていた恨みは、決して尽しきるこ^トなへ

しかし、この誓いが実現されないまま、相思の一人が離

る。

永久不変といわれる天地さえ、いつかは尽しきるこ^トもある

といつ誓いだつた。

の枝となつる。((い)して、一人はいつまでも離れま

地上に生える樹となつたならば、枝と枝とが連なつた連理

いにならなければ飛べないといふ比翼の鳥となる。もし

「もし空を飛ぶ鳥に生まれ変わつたとしたら、雌雄がつが

他に誰もいな^いい時に一人がささやき交わした際の、

半^なか、長生殿(玄宗が楊貴妃を伴つて来訪した驪山の離宮)で

それは、天宝十年(七五〇)の七月七日、七夕の日^{の夜}よ

玄宗と貴妃の一人が心に知つてゐるだけのものであつた。

託した。その言伝^{いづ}ての中に誓いの文言があり、これは

方士が別れ去るに際して、太真は再び(玄宗への)言葉

194

ところで、玄宗皇帝に寵愛された絶世の美女「楊貴妃」は、
そこで、玄宗皇帝に寵愛された絶世の美女「楊貴妃」は、
……極めて自然に、光孝天皇に寵愛されてゐる絶世の美女
『小野小町』と結びつけて考えられるこ^トとなつたようによつて
想像される。

①なお、先述のとおり、白楽天は元和元年(八〇六)頃
『長恨歌』を作りはじめたといふのに、……小野篁(八〇
一~八五二)は、早くも白楽天(=白居易)の影響を受け
たのだった。次のとおりに説示されていて、
「小野篁は、惟良春道と共に、白居易の影響を受けた最も
早い詩人。『扶桑集』の作者である。『西道説』『諸行吟』
の詩作があつたが、伝わらない」

といふ。(「國書總目錄」岩波書店・小野篁^{くのくわ}参考)
②また、『長恨歌』が「源氏物語」に与えた影響は著しく、
こととに相^あ違^{たが}は單^{たん}に語句だけではなく、その構成上の参考
になつたと思われるこ^トがある。

『長恨歌』は、『枕草子』、『平家物語』、『源平盛衰記』、『十訓抄』、『太平記』、『和漢朗詠集』、詠曲『楊貴妃』、『皇帝』、『琴曲』『長恨歌』などにも影響を与えた、とい

う(「漢詩」藤野岩友、旺文社、一三五、一三八頁参考)

ところで我々は、

*

正月の歌

- 五月十日条に、「自より去さる七日七日大雨。河水漲あが溢あふ。人馬不可」
『三代実録』から抜粋してみよう。

それにもしても、なぜかしら、——今年、仁和一年（八八

△の夏から秋にかけて天候不順で、雨が多かった。

『三代実録』から抜粋してみよう。

「漁」

● 六月十三日条に、「自リ 今月

○EN STURM

● 六月廿三日 条目二

倉廩一脈之

Digitized by srujanika@gmail.com

● 七月廿九日、八月四日から七日まで霖雨が降り続いたといふ

。ଉଦ୍‌ଦେଶ୍ୟରେ ପାଇଲାମାରୁ ।

■『妃の位』に升りたのであるが、と想到される。

ところを見ると、……必ずや小野小町は、かなりの高位

す愛称ともなっているに、誰も異論をつけるまい

でも特に際立って美しい輝くばかりの『絶世の美女』を指す

■平安朝以降長きにわたり、『小野小町』が美女達のなか
けられ、この当時の尋常ならぬ様子が察せられる。

『絶世の美女』と呼ばれていることを黙認したように見受けられたが、高き宮中の高貴な女性達ひえ、小野小町が

と思われる。

つまり、「小野小町」と「絶世の美女」とが、非常に強く直結している感じがある。一体どうしたわけで、そんなことになつたのだろうか。世間のじへ一般的な心面から言えば、采女あるいは中脇女房として宮仕えしていくひとりの女性「采女あるいは中脇女房」として宮仕えしていく一人の女性を、「日本国中の老若男女全てが異口同音に『絶世の美女』と呼び、譽めちぎって絶讚する筈など、決してあるま

- 「小野小町」にじつ名を聞けば、「絶世の美女」といふ、ただちに「小野小町」の名を
言葉を思い浮かべ、
- 「絶世の美女」といふ、ただちに「小野小町」の名を

しかし、待っていると咲さんは、なかなか雨は降り続かないのかな。
いやあ、たしかに咲さんは、なかなか雨は降り続かないのかな。
いやあ、たしかに咲さんは、なかなか雨は降り続かないのかな。
いやあ、たしかに咲さんは、なかなか雨は降り続かないのかな。

■とにかく、八月四日から降り出した雨は一日中降り続つき、一一日の八月五日の朝になつても、まだ止みなかつた。

じに、光孝天皇は、こう言われた。
「六月の霖雨は、都の者達を大いに困窮させた。四日から
降り続いているこの霖雨が、再び人々を苦しめないよう、
上り音の所のことにする。」

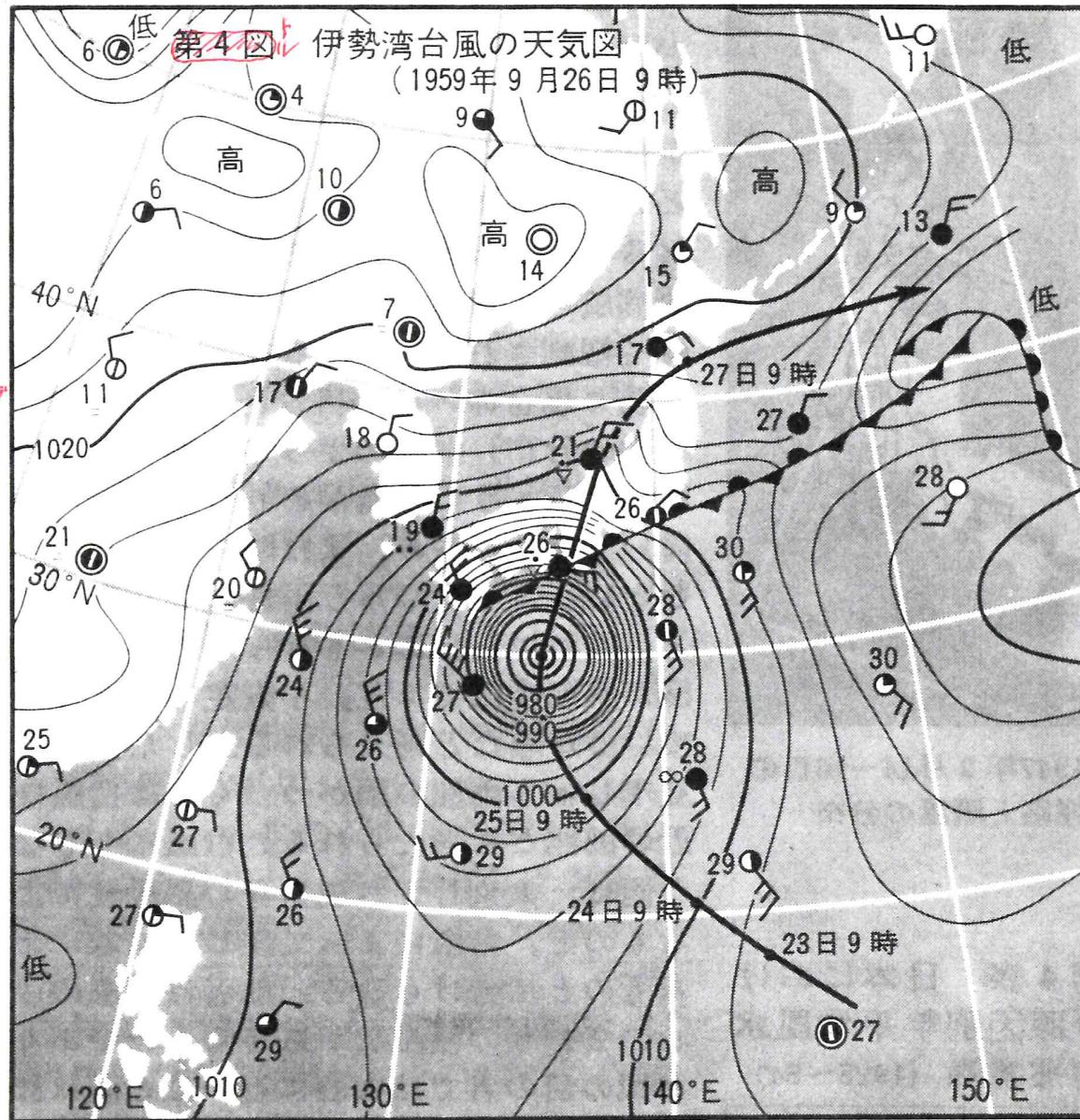
その詔詞を聞いた朝田達は驚いた。

『社』へ行きたいと思ふに至った。光孝天皇は、何としても、小町をつれて『丹生河上神社』へ行かなかった。

5,540^P

二頁の右上(1/4頁)に、
限度一杯はみ出で
大きく掲載下さい。

特例として、
枠をつけて
おきたい。



13 QG

14 QG

第548図

あきさめせん・ひ・つづ
秋雨前線に引き続いでやって来る台風の例

12QG 『世界大百科事典』19 平凡社 1972年4月25日発行 183頁参照
•恐らく幾分小さい台風が近畿地方をかすめたのであろう。

198^P

力テ一
員の左上(終頭)ニ大主^{スル}提裁下之^ル
~~主~~

文選

9

12)

水よ静まれ 562年ふり白馬

水の神をまつる奈良県下	市町の丹生川上神社下社	で1丁目、562年ぶりに	白馬を獻上する神事が復活した。参著者は、昨年回、震災の被災地、茨城県稲敷市で競走馬の牧場	年の東日本大震災や紀伊半島を襲った台風12号豪雨の被災地の復興を祈った。参著者は、昨年回、震災の被災地、茨城県稲敷市で競走馬の牧場	60人が準備や豪雨被書から400人を見守る中、京都司(51)に申し出て実現。約6年から兩乞いや雨止めの復興を願い、皆見元久宣神社では奈良時代のマ	3年から兩乞いや雨止めの復興を願い、皆見元久宣神社では奈良時代のマ	市乗馬クラフから借りたの国家的な祭りが行われ、市	兩乞いには黒馬、雨止めには白馬を拝殿前に捧げ、復興	には白馬が朝廷から献上を祈つた。
-------------	-------------	--------------	--	---	--	-----------------------------------	--------------------------	---------------------------	------------------



5.541

1466

1406 写真図版 805 丹生上川下社の止雨の神事
1206 丹生上川神社下社で、平成24年6月1日、562年ぶりに白馬を献上する
神事が行なわれた。(皆で拝礼しているところを示す)
・空町時代の1450年の止雨を最後に、神事の記録は無い。
13 朝日新聞 平成24年6月1日未く水止静まれ 562年ぶり白馬>參照
1406

199

空旷时代 1393年～1513年